

渋沢栄一の「スピーチ」から、今を生き抜くヒントを読み解く 岩波現代全書『原典でよむ 渋沢栄一のメッセージ』 7月18日(金)に発行

文京学院大学経営学部教授の島田昌和が編者となった書籍『原典でよむ 渋沢栄一のメッセージ』が、本日、株式会社岩波書店より岩波現代全書として発行されましたので、お知らせいたします。

本書は、世界遺産に登録された「富岡製糸場」をはじめ、生涯で1,000以上の企業や団体の立ち上げ・育成に関わり、「近代日本の民間リーダー」と称される渋沢栄一の、「スピーチ」に焦点を当てた初めての書籍です。

「日本資本主義の父」「教育家」「民間外交家」「社会企業家」とさまざまな顔を持つ渋沢栄一は、数多くの書籍を出版しています。しかし、書物として記されたものと、聴衆を前に直接スピーチされたものとは、その内容や語り口が大きく異なっています。本著では、渋沢栄一が社会に直接語りかけた「スピーチ」のメッセージから、現代でも普遍性を持つ気概や情熱、ものの見方を知り、今を生き抜くヒントを読み取ることを目指しています。

『原典でよむ 渋沢栄一のメッセージ』目次

序 維新の変革の中で自分の原点ができたー渋沢の定番トーク

第I部 会社組織のメッセージ

- 第1章 官尊民卑の打破は合本法で生み出す
- 第2章 殖産興業のための商業金融路線の確立
- 第3章 逃げずに、根気強く、株主総会で共通利害を生み出す
- 第4章 国に頼らず、外資に耐えうる企業体質

第II部 教育を通じてのメッセージ

- 第5章 若き“キャプテン・オブ・インダストリー”への忠告
- 第6章 私学の雄・早稲田の杜を守り抜く
- 第7章 女子のあるべき姿を求めて
- 第8章 新しい商人は卑屈になるな

第III部 国際社会へのメッセージ

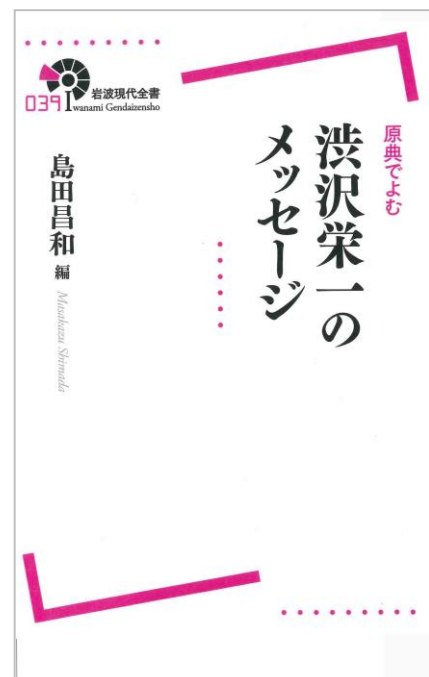
- 第9章 宗教の根源を求めてー帰一協会のメッセージ
- 第10章 はじめての米国訪問
- 第11章 関東大震災への対応ー天譴と復興
- 第12章 最後の賭け、青い目の人形交流

第IV部 国家・社会へのメッセージ

- 第13章 社会事業を切り開き、人生の最後まで捧げる
- 第14章 道理正しいビジネス
- 第15章 労使協調といういばらの道を進む

結 孫の敬三が引き継いだものー戦後処理を担った大蔵大臣

あとがき



『原典でよむ 渋沢栄一のメッセージ』発行概要

書名：『原典でよむ 渋沢栄一のメッセージ』

編者：島田昌和

発行：株式会社岩波書店

定価：本体 2,100 円＋税

刊行日：2014 年7月18 日

仕様：四六判

ページ数：240 ページ

I S B N：978-4-00-029139-2

販売店：全国の書店

編者プロフィール

氏名	島田 昌和 (SHIMADA Masakazu)
職名	教授
最終学歴	明治大学大学院経営学研究科博士課程
学位	経営学博士(明治大学)
主な経歴	<p>1987 年 早稲田大学大学院経済学研究科経済学修士号取得</p> <p>1993 年 明治大学大学院経営学研究科博士課程単位取得満期中退</p> <p>1996 年 文京女子大学(現・文京学院大学)経営学部助教授</p> <p>1998 年 ミシガン大学客員研究員</p> <p>2001 年 文京女子大学(現・文京学院大学)経営学部教授(現在に至る)</p> <p>2006 年 明治大学大学院経営学研究科にて博士号取得</p> <p>2007 年 文京学院大学大学院経営学研究科教授(現在に至る)</p> <p>2009 年 一橋大学大学院商学研究科日本企業研究センターフェロー(現在に至る)</p>
専門分野	経営史、経営学
研究課題 (主なテーマ)	<p>渋沢栄一の企業者活動の史的研究</p> <p>光学系精密機械産業の研究</p> <p>エンタテインメント・ビジネスの研究</p>
研究業績 (一部抜粋)	<p>『大企業時代の到来』(日本経営史5)(共著)岩波書店、1995 年</p> <p>『情報と経営革新』(共著)同文館、1997 年</p> <p>『渋沢栄一の企業者活動の研究-戦前期企業システムの創出と出資者経営者の役割』(単著)日本経済評論社、2007 年</p> <p>『進化の経営史-人と組織のフレキシビリティ』(共編著)有斐閣、2008 年</p> <p>『渋沢栄一 社会企業家の先駆者』(単著)岩波新書、2011 年</p> <p>『企業家活動でたどる金融事業史』(共著)白桃書房、2013 年</p> <p>『渋沢栄一と人づくり』(共編著)有斐閣、2013 年</p>